



おかだ

仙台市立岡田小学校
学校だより 第7号
令和2年8月28日
TEL：258-1083
FAX：258-2085
児童数 176名

協働型学校評価重点目標

○明るいあいさつと相手の気持ちを考えた言葉遣いができる子供

大好評！学校ホームページ・ブログ更新・公開中

岡田小学校協働型学校評価重点目標への取組について ～学校評議員・学校関係者評価委員会が出されたご意見から～

学校経営方針や協働型学校評価重点目標への取組、いじめ防止対策等についてご意見をいただく学校評議員・学校関係者評価委員会を例年6月に実施していましたが、今年度はコロナ禍の影響により、7月に紙面にて委員の皆様からご意見をいただきました。いただいたご意見の一部を以下のとおりご紹介します。ご一読ください。

なお、学校経営グランドデザインや学校教育目標、いじめ防止基本方針等につきましては、6月に配布しました学校要覧か学校ホームページをご覧ください。

1 学校経営方針について

- ・とてもよくまとまっていて、「子供たちのために」という思いがとても伝わってきます。「心に届く指導の充実」は大変なことですが、子供たちにとってはとても大事な事だと思います。どんな活動をする時にも、理解した上で活動してほしいと思います。
- ・学校経営に欠かせない視点の一つとして、地域性を含めた環境が挙げられると思います。先生方が感じた岡田小学校の特徴を挙げ、更に伸ばしたい項目や改善すべき項目（被災校、小規模校のメリットと課題など）を強調してはいかがでしょうか。

2 協働型学校評価目標・取組について

- ・子供たちの挨拶は徐々によくなってきた感じです。（特に低学年）
- ・三者にとって、高過ぎず、着実に実行できる活動目標となっており、とても現実的でよいと思います。学校の振り返りについては、先生方だけでなく、子供たち自身にも振り返らせてほしいと思います。
- ・明るく元気な挨拶をする児童よりも、シャイな挨拶をする児童の方が多いと感じます。もしも、「全国挨拶大会」があって参加したとしたら、宮城県大会突破も難しいと思います。みんなで立てた「あいさつ日本一」という目標を達成できるように頑張してほしいと思います。

3 いじめ防止に関する取組について

- ・日々の子供たちの見守りの中で、岡田小学校にはいじめがほとんどないと思っていますが、地域住民も些細な事に気をつけて見守り続けていくべきだと思います。
- ・高学年になればなるほど、いじめは気がつきにくくなるため、早めの対応が必要だと思います。早いうちから個々を認めるということを伝えることも必要かと思います。
- ・プロジェクトやミニ会議、グループ宣言等、縦割り活動がとてもよいと思いますので、長く続けてほしいと思います。



- ・にこにこアンケートは低学年にも分かりやすく、「いじめ」という言葉を使うことなく、先生方からの温かいメッセージが込められていて安心して記入することができるものだと思います。
- ・キズナプロジェクトについて、子供たちが縦割りですばらしいと自主的に考え、連携しながら取り組める過程がすばらしいと思いました。子供たちの思いと活動がもっと地域に伝わると達成感も高まると思います。これからもいじめを自分事として考えられるプロジェクトの継続をお願いします。



4 その他

- ・学校に協力し、子供たちのためにすばらしい教育環境づくりをと考えています。挨拶、心遣い、人との接し方、つき合い等、大人の姿を子供たちが見ているものです。まず、地元の大人、そして保護者から当たり前のことを徹底していきましょう。
- ・学校が再開した6月の登校時は、うつむいて歩き、車が迫って来ても気づかない児童や、途中、忘れ物に気づき、家に戻る児童が多くてとても心配でしたが、7月には改善され、ひと安心しました。子供たちが徐々に活気を取り戻していく様子に、学校の力を感じました。長期休み明けは「忘れ物ゼロ強化週間」を設けるなど、皆で声を掛け合って忘れ物をなくす取組をお願いします。

以上を踏まえ、改めて以下のとおり、学校・家庭・地域の三者協働で目指す児童の姿と改善活動を考えました。皆様にも意識して取り組んでくださいますようお願いいたします。年度末にそれぞれの取組について振り返りを行う予定です。その際には、取組事例や子供たちの姿、課題等をお寄せいただければと思います。岡田地域を挙げて子供たちを育てていきましょう。

【今年度解決を目指す協働型学校評価の重点目標】

～三者協働で実現を目指す児童の具体的な姿～

- ◎明るくあいさつができる子を90%以上にする。
- ◎場面に応じた相手の気持ちを考えた言葉遣いができる（ちくちく言葉は使わない。ふわふわ言葉を使う。）子を70%以上にする。

【重点目標具現化のための三者の改善活動】

～学校・家庭・地域の三者それぞれの立場での実現可能な具体的改善活動～

学校	家庭	地域
<ul style="list-style-type: none"> ・1年生から6年生まで各学年が縦割輪番で、挨拶運動をする。 ・集会活動や委員会活動（放送など）を通して、子供たちに周知していく。 ・学校便りやHPで学校での取組の様子や状況を家庭や地域に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級懇談会等で積極的に話題に出して、よりよい児童の姿を共通理解し、実践方法について話し合う。 ・家庭生活においても、他人に接する機会を捉えて、あいさつや言葉遣いの大切さを意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時等、児童を見守りながら積極的にあいさつや言葉かけを行い、顔の見える関係を築く。 ・学校行事等の機会に学校に足を運び、児童の取組の様子を見て励ます。

